

馬越峠周辺で清掃活動

古道サポーター

県が呼び掛ける「熊野古道サポーターズクラブ」の清掃ウオークが22日、紀北町海山区鷺下の馬越峠であり、



雨の中馬越峠の看板清掃に取り組む熊野古道サポーター（22日、紀北町海山区鷺下で）

地元保存団体や町内外からのサポーターなど17人が参加。雨の中、峠入り口や周辺の道路の清掃活動に取り組んだ。

同クラブは昨年5月、世界遺産10周年を記念し、地元保存会に協力して熊野古道伊勢路の保全・啓発活動を市民レベルでサポート

しようと県が全国に募り、結成した。伊勢路踏破ツアーや情報発信のほか清掃ウオークを開催し、11月の曾根次郎坂、12月八鬼山に続いて3回目。

今回は津市や松阪市、地元紀北町のサポーター5人、馬越峠の保全活動に取り組む海山熊野古道の会5人のほか、県・町職員らも参加。あいにくの雨で石畳道が滑りやすいことからウオークを縮小

して普段同会ができない古道周辺を清掃した。

同会の西尾寛明会長の案内で雨合羽を着込んだ一行は道の駅海山から峠入り口までの国道42号のごみ拾いに取り組み、古道客が休憩する付近の鷺下公園も清掃。コケやスズで汚れた馬越峠の案内看板や道路標識などもタワシとぞうきんで磨き上げた。入り口から100メートルの1番道標までの石畳道に落ちる枯れ枝やタバコの吸い殻なども拾い集め、1時間ほどの作業で45袋のごみ袋1袋分を収集した。

津市から参加の松田賢吉さん（70）は「伊勢路は景観が美しく歩く度に先人の苦勞に感謝するので少しでも力になれればと参加した。雨で不完全燃焼だが古道歩きは楽しく次回はおもっとならばりた

い」と話し、紀伊長島区から初参加の田中勝雄さん（32）は「健康のために昨年から古道歩きを始めたが、今日の清掃で心も一緒にきれいになった気分が気持ちいい。清掃ウオークはやりがいもあり次回が楽しみ」と笑顔で話していた。

同クラブ事務局で県東紀州振興課の山口直宏主査は「今は熊野古道の情報発信が主な取り組みなのでファンクラブ的な存在だが、今後は地元保存団体との関わりを増やして清掃や語り部などで実践してくれるメンバーが生まれるような環境をつくっていききたい」と話していた。

同クラブの会員数は昨年末現在で741人。うち県外200人（27%）、県内541人（73%）で東紀州は96人（13%）。

平成27年1月23日(金)

南海日日新聞より抜粋